

施方法), 面談の計画と実施(面談の必要性の有無の検討, 面談対象者の選定, 面談についてのアナウンス方法, 面談の目的や内容とその手順, 面談後の個別フォローに関する取り決め), 組織へのフィードバック(組織的課題の抽出とその報告, 職場環境改善の提言)という流れが示され, 実体験に基づく課題やポイントが示された。

(8) 一般演題

一般演題は「マクロ×未然防止領域」, 「マクロ×事後解決領域」, 「ミクロ×未然防止領域」, 「ミクロ×事後解決領域」のセッションで, 計15題が発表された。

優秀演題賞には, 合資会社京都労務トラストの篠原耕一氏による「酸素欠乏症等防止規則による酸素欠乏症および硫化水素中毒の防止について」が選出された。

おわりに

今回は前回に引き続き2回目のハイブリッド開催となり, 前回の経験を活かしてより質の高い大会運営が行われたと感じている。とはいえ,

大会の準備・運営に多大な苦労があったことに間違いはなく, 運営に携わられた方々のご尽力に心から感謝を申し上げたい。

生来, 「予防」と「法」の相性は良くないと言われる。「予防」が事前の対策であるのに対し, 「法」は事後の責任やルールを定めたものだからである。冒頭に述べた通り, 本学会はこの壁を打ち破り, 産業保健領域と法領域とが交錯して化学変化を起こす場となることを目的のひとつとしている。今回の第2回学術大会に参加された方々は, 様々な面で予防と法の融合が進んだことを実感されたことだろう。産業保健と法を結ぶ新たな領域のさらなる発展を大いに予感させるものであった。

最後に, 第3回学術大会のご案内を差し上げて, 本稿を攔筆したい。次回も多くの方々にご参加いただければ幸いである。

かじわら たかよし

株式会社梶原産業医事務所
代表取締役
一般社団法人日本産業保健法
学会 広報委員会主幹

日本産業保健法学会 第3回学術大会

会 期: 2023年9月16日(土)・17日(日)

会 場: 大田区産業プラザPIO(現地開催・オンライン開催のハイブリッド開催)

統一テーマ: 「第四次産業革命と産業保健制度」

大 会 長: 林 剛司 (株)日立製作所 産業保健推進センタ長, 産業医科大学産業衛生教授

副大会長: 吉田 肇 弁護士法人天満法律事務所 所長

事務局 長: 田原裕之 (株)スクウェア・エニックス統括産業医, 産業医科大学産業精神保健学